

タイの食や水の状況を知ろう

人間科学部 コミュニケーション学科 2年 阿部夏海
チェンマイ・ラチャパット大学

1. テーマ設定の理由

私が今回の留学で取り組んだ SDGs 課題のテーマは、「タイの食や水の状況を知ろう」です。それに関連して、私は SDGs17 個の目標の中で「2. 飢餓をゼロに」、「6. 安全な水とトイレを世界中に」を選びました。私がこれらのテーマを選んだきっかけは、大きく分けて2つあります。1つ目は、タイの日本とは異なる水の問題に興味があったからです。私は留学前からタイの生活についてたくさん調べました。その中で度々見かけていたのが水まわりの問題でした。多くの方が口を揃えて言うのが、タイの水は飲めないし、危険だということ、タイの水には気を付けた方がいいということ、タイのトイレは日本のトイレとは異なるということなどでした。私はインターネットや本などで調べたことが実際の生活ではどうなのか、日本とは根本的に何がどう異なるのかを調査しようと思いました。

2つ目は、タイの食事と関連している飢餓の問題について深く理解したいと思ったからです。私は美味しい食べ物を食べるのが趣味です。そんな自分は、今回の留学先ではどんな食べ物に出会えるのか行く前からとてもワクワクしていました。タイを含めた東南アジア系の食べ物についてインターネット特に、(YouTube や Instagram) などで見かけたのは、日本ではあまり見かけないストリートフードの動画でした。それらの動画から感じたことは、気温が高い地域かつ外で調理をした食べ物は衛生的にどうなのだろうか、調理の際に利用する水や油などは果たして安全なのだろうか、食べ物を売っている方や路上で物を売っている人はしっかりと安定した賃金を得られているのだろうかということです。実際に屋台で働いている現地の方々のインタビュー動画などでわかったことは、非常に低い賃金で働いているため、生活が困窮しているということです。私はそのことを踏まえて、飢餓や貧困を抱えている人々の現状はどうなのかについて調査したいと思いました。

2. 留学先での活動計画と実際に取り組んだ内容、調査・観察したこと

ここでは、私の4ヶ月間の留学で取り組んだ SDGs 活動計画と現地で実際に取り組んだことについて話します。はじめに、私は4ヶ月間のプロジェクトとして、2つの SDGs 目標を基に活動計画を作成しました。私は今回の調査方法として、現地調査(フィールドワーク)とインターネットを使った調査の2種類の方法を取り入れました。活動計画の詳細は以下の通りになります。

到着～1ヶ月	タイでの水や食事の状況について、自分の体験したことや調べたことについてまとめる。
～2ヶ月	実際に現地のお店などに行って、水や飢餓の現状を知る。
～3ヶ月	今まで体験、調べたことの知見をまとめ、課題点を明確化する。
～4ヶ月	これまでの課題点を踏まえて、具体的にどこが日本と異なり、どのようにしていけば解決への糸口になるのかについてまとめる。
～5ヶ月	チェンマイ以外の場所で水や飢餓の現状を知る。その結果、どのように違うのかをまとめる。

次に、提示した活動計画を踏まえ、私が実際に取り組んだ内容について説明します。まず、最初の1, 2ヶ月はチェンマイ(タイ)での日常生活を送りながら、身近な気付いたことについて疑問や興味を持つということから取り組みました。現地の生活に少し慣れてきた(2, 3ヶ月目)くらいからは、大学で知り合った友人などと地元の方しか知らないようなローカルなお店やディープな場所へとフィールドワークの幅を広げて調査を行いました。また、インターネットを再度駆使し、必要な文献を集めるという作業も同時進行で行いました。それらを基に、これまでの調査内容をまとめ、日本や他のタイの地域(主にバンコク)との比較を行いました。

3. 活動や調査の結果についての考察、日本(茨城)との比較

ここでは、私の行った活動から生じた調査結果について説明します。私はこれまで説明してきた通り、現地調査と文献(ここでは、インターネット記事を含む)を用いた二つの方法からタイにおけるSDGsの課題について取り組んで参りました。そこで得られた調査結果ですが、私の場合は、2つのSDGsゴールについて調査を行ったため、それぞれに分けて説明します。まず、「6.安全な水とトイレを世界中に」についてです。調査の結果からわかったことは、タイのチェンマイやバンコクでは、街中でペットボトル類などのゴミが散乱しているということがわかりました。このことは、一見すると、水の問題に関係あるのかと思われるかもしれませんが、それらはとても相関関係があります。第一に、タイの水道水は飲むことが出来ません。これは、タイの水道設備が日本のように整っていないことを意味します。つまり、タイでは水道から安全な水を得ることができないため、外から購入する必要があるということです。さらに、これはSDGsの「12.つくる責任、つかう責任」とも少し関連する事ですが、タイには明確なゴミの分別におけるルールが存在しません。そのため、ひとつのゴミ箱にプラスチックや空き缶(燃えないゴミ)、燃えるゴミなどを一緒にしている所が多いためです。これらのことが影響して、タイのゴミは街中に散乱しているのです。つまり、上下水道が発達していないことが、安全な水を得られないだけでなく、ごみの問題までも引き起こしていることがわかります。

次に、タイのトイレについても同様に調査結果を説明します。はじめに、今回の調査からタイのトイレは、日本のトイレと大きく異なる点があることがわかりました。それは、トイレレ

トペーパーが流せないトイレが一定数存在しているということです。さらに、タイのトイレには、トイレトペーパー自体が全く用意されておりませんでした。また、日本のようなウォッシュレットの機器が搭載されておらず、水撒きの際などに使われるようなウォーターガンと呼ばれるホースが備わっていました。加えて、タイの公衆トイレの数が少なかったり、清掃が行き届いていなかったりなどもありました。これらのことは、タイの文化に慣れ親しんでいる方(現地の方など)からすれば、当たり前前の光景に思われるかもしれませんが、私のように別の地域の人からすれば、少し異様で抵抗を感じることはないでしょうか。

最後に飢餓・貧困の問題について調査結果を説明します。まず、前提として、飢餓・貧困の問題はSDGsの達成目標「2.飢餓をゼロに」に基づいています。はじめに、私はチェンマイの街で物乞いや物売りの方を見かけました。小さい子供たちや高齢者など物売りの方の年齢や性別は様々でしたが、生活に困っているような方が多く見かけられました。彼らはナイトマーケットやお寺などの観光地、食べ放題やバーなどの飲食店などでよく見かけます。現地の方や観光客に金銭を求めたり、飲み物や宝くじ、お花などを買わないかと持ち掛けたりして生活をしているのだと思います。私はほんとに小さい子供やとてもお年を召されている方がそれらをしているのを見て、とても可哀想だなと感じました。JBIC国際協力銀行(2023)によると、タイの首都におけるバンコク首都圏の1人当たりGDPが435,356バーツなのに対して、バンコク東北部のGDPは86,232バーツと5倍以上の差があることが分かります。また、同資料によると、バンコク首都圏はタイ国土の1.5%の広さしかないにもかかわらず、人口はタイ全体の24%、GDPは47.6%を占めていることも分かります。これらのことからタイ都市部とタイ農村部では、貧富の差が生じていることがデータからも明らかであると言ってよいでしょう。つまり、チェンマイに限らず、他の地域でも経済的に厳しい人々がたくさんいるということです。私はチェンマイでの留学を終えて、1週間ほどタイの首都であるバンコクにも滞在しました。そこでは、バンコクの経済発展の豊かさを目の当たりにしました。しかし、チェンマイと比べると物価がとても高く、その物価についていけない貧しい方や浮浪者の方々がいるということを実際に見て感じました。私の個人的な意見にはなりますが、経済発展を優先するのは国益を上げることにつながる良いことだと思います。しかし、そればかりを優先しては、貧困や飢餓の問題を誘発させることにつながるので、あまり良い選択だとは思いません。何事も順序が大事なのではないでしょうか。

3. 日本(茨城)に提案できること

ここでは、私自身が4か月間に渡る留学で得た調査結果を基に茨城県や日本に対して、いくつかの提案を行いたいと思います。1つ目は、「水を大切にしようということ」です。具体的には、日本という世界でも数少ない安全な水を水道から得られる国の資源を無駄使いしないようにしようということです。留学に行く前のわたしは、水道水なのだから飲めるのが当然だと思っていました。しかし世界には、タイのように水道から飲み水を得ることができないところやそもそも水道の設備がないところなど様々だということがわかりました。それらを踏まえて、

私を含めた日本人は、もっと水道水の有難さを理解して、適切に水道を利用することが大切だと思います。そうすれば、もっと海外に日本における水道のシステムが如何に素晴らしいかを伝えることができると思います。そのことによって、日本が海外に水道の技術を伝えることが可能になるのではないかと思います。

2つ目は、日本における「掃除の習慣はどんなに素晴らしい」かを全員が理解するという事です。どういうことかという、日本は幼稚園~小学校くらいになると必ず生徒に学校の清掃を行わせます。掃除当番などを決めて、決められた場所を時間内に掃除する例のものです。事実生徒たちは、学校の掃除をすることが面倒と感じる人がとても多いです。しかし、彼らは仕方なくでもしっかりと清掃を行います。そのことによって、学校は本当にきれいな状態が保たれています。そんな彼らは日頃から掃除をする習慣を身につけ、学校外でも掃除をする、ゴミを持ち帰る、分別をするなどを行います。結果として、日本国民全体で綺麗と言われるような日本の習慣や環境が形成されていきます。このことは、もし日本だけで生活していたら、全く知る由もなかった事象だと思います。ですから、日本人はもっと自信を持って、この素晴らしさを海外に発信して行って欲しいと思います。そうすることで、世界中がきれいで素晴らしい環境になるのではないかと思います。

3つ目は、茨城県や日本全体で「経済格差をなくそう」ということです。わたしが先ほど述べたようにタイには明らかな経済格差、異常なまでの高度経済発展が行われています。その結果、それについてこられない人々(貧困層や浮浪者)が一定数存在するのが事実です。そのことを私たちが生活する日本に置き換えて考えると、日本でも裕福な人と生活に困窮している貧しい人が存在することが分かっています。しかし、個人的にはタイのほうがそれは、進んでいるのではないのでしょうか。とにかく、その格差の摩擦を小さくできるような取り組みを行ったり、なにか有効な手立てを考えて行ったりすることが、これからの私たちに必要なことだと思います。つまり、これからの時代は私たちが担っていく必要があるということです。

参考文献

JBIC 国際協力銀行 (2020) 「タイの投資環境/2023年2月:第24章 地域別の概要」
」 <https://www.jbic.go.jp/ja/information/investment/image/inv-thailand24.pdf> (閲覧日:2024年02月16日)